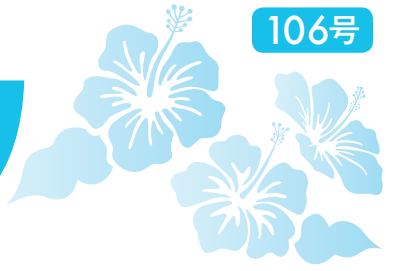


パステル



特集

まちで話題の

イクメンを

ぷち

リサーチ



子育てに熱心な父親「イクメン」が流行語大賞トップ10に選ばれたのは平成22年のこと。それからというもの「イクメン」という言葉は世の中に定着し、今年に入つてイクメンを紹介するテレビ番組も登場しています。イクメンが目される理由として①女性の社会参加や所得の伸び悩みにより共働き家庭が約6割と増えていること（平成22年国勢調査）②ママの約半数が「育児ノイローゼだと感じたことがある」と答えており、さらにママの9割以上が「育児ノイローゼ解消には夫の協力が必要」と答えている（平成22年MMD研究所発表）などの社会背景があげられます。これまでの「男は仕事、女は家庭」という男女の役割や働き方を見直し、「男も女も仕事も家庭も地域も」と選択肢を広げるには、父親の積極的な参加が求められています。

イクメンが注目されるのは社会背景だけが理由ではありません。家事や育児を多く分担している夫ほど妻から「良い父親」だと思われており、年収の多さ、少なさではないのです（平成24年労働政策研究・研修機構実施「子育て世帯全国調査」）。また妻の育児負担が大ききほど第二子は生まれにくく、一人目の子どもを夫が前向きに子育てしている夫婦ほど第二子が生まれやすい傾向にあるそうです（厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」）。

子どもへの関わりは、家族との絆が深まると同時に、育児の経験が仕事に活かされたり、地域の人脈が増えたり、自己成長につながるとも言われています。さて実態はどうでしょうか？今どきのイクメン事情を探ってみました。

CONTENTS

特集 まちで話題のイクメンをぷちリサーチ P1~6

パステルおすすめ本 P6

女性のための「たんぼぼ相談」 P7

インフォメーション P8